

ラウンドテーブル「内部質保証システム構築に向けた教学IRとFDの連動」

島根大学における教学IRとFD

山田 剛史

(島根大学教育開発センター副センター長)

E-mail: t-yamada@soc.shimane-u.ac.jp

Website: <http://yamatuyo.com>

報告内容

1. 組織概要とアクターおよび本報告の目的
2. 各種学生調査の構成と位置づけ
3. 学生調査を核とした教学IRとFDの連動
4. 今後の課題（論点）



1. 組織概要とアクターおよび本報告の目的

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

3

センターにおける「IR」と「FD」の位置づけ

- 全学の教育改善・FDを推進する機関 (not IR)
- 認証評価、中期目標・計画、アクションプランなど機関の意志決定にも強く関与
- FDを包括的な枠組みの中で捉え直し (FDポリシー)、Learner Centered & Evidence Basedによる教育改善・FDを推進
- 様々な学生調査をこのサイクルの中に教学IRとして位置づける (functional IR)

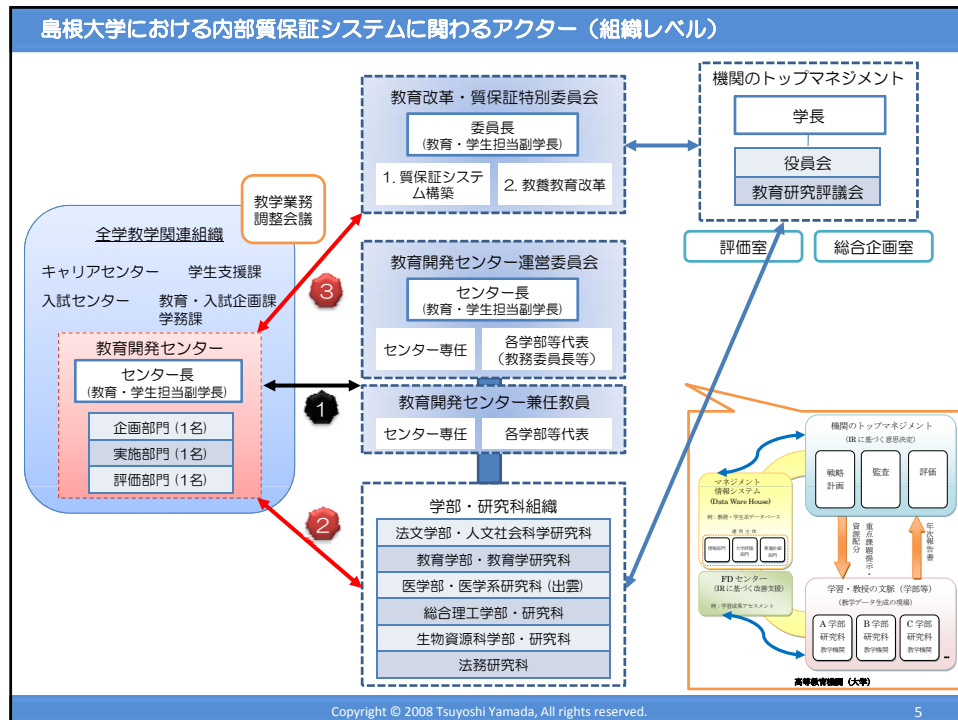
島根大学FDポリシー

FDとは、大学が掲げる教育理念・目標を実現すること、学生の学習成果を最大限に高めることを目的として、**授業やカリキュラムの改善・質向上**および**組織の整備・改革**、を組織的に行う取組の総称である。その際、これまで日常的に行われている教育改善のための営み・対話をFDの本質的営みとして位置づけるとともに、それらを教員と職員の協働、学生の参画を通じて実現するものとする。



Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

4



5

本報告の射程と目的

- 学内の教育改善・FD実践を中心的役割としてきたFDセンターが、内部質保証システム構築過程において、これまで実施してきている「学生調査」を包括的FDの枠組みの下で「教学IR」として再定位する。
- 本報告では、1.各種学生調査をどのような意図・目的の下で構造化・実施し、2.様々なレベルにおいて教学IRとFDとの連動を図りながら、3.内部質保証システム構築に寄与させていくのか、といった点について検討を行うことを目的とする。

6

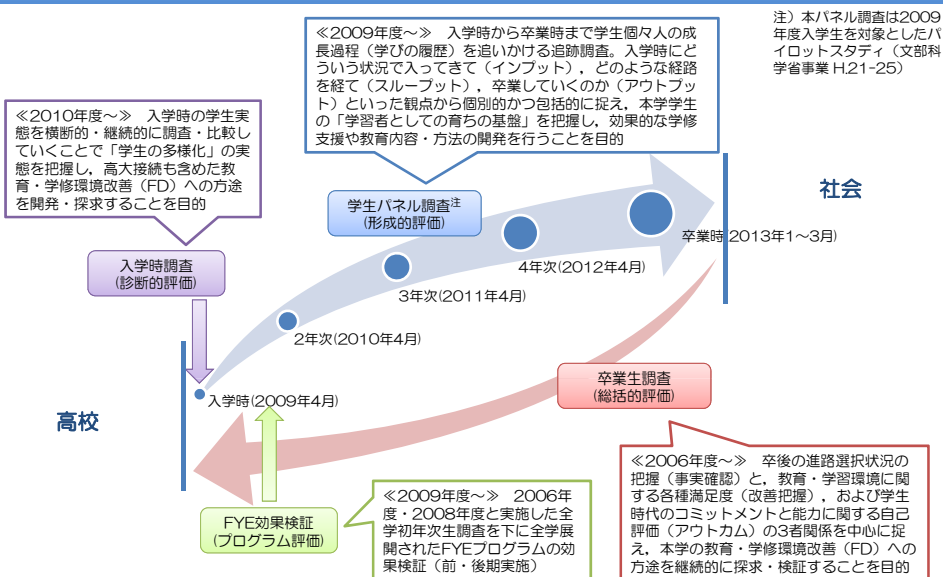


2. 各種学生調査の構成と位置づけ

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

7

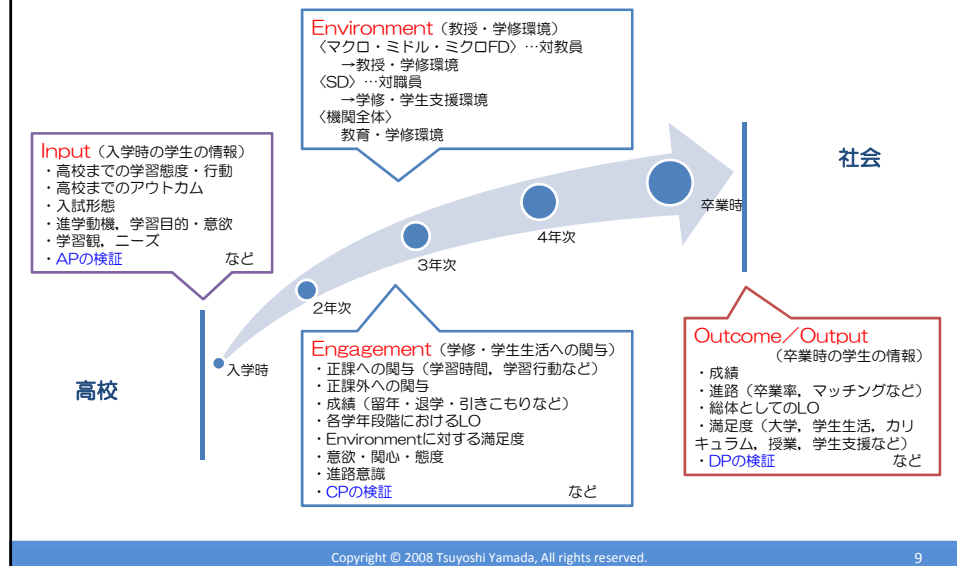
各種学生調査の構成と目的



Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

8

各種学生調査の分析フレーム



Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

9

各種学生調査の基本コンセプト

1. 「何を聞くか」より「どう分析し」「フィードバックするか」を重視 (IRとFDの連動)

⇒そのためには調査設計スキルや分析スキル、教育開発・改善 (FD) に係る知識・技術および学内でのアクセスポイントの増強とネットワーキングの形成が必須

⇒同じ調査でも「誰に向けるか (メッセージ先)」により見せ方を調整

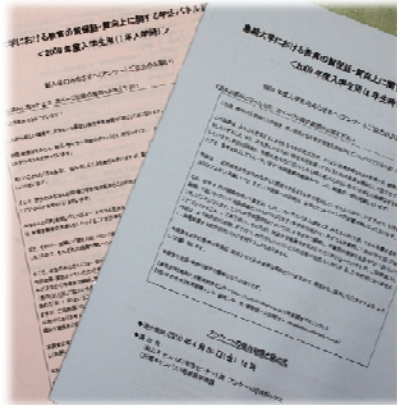
2. 「教育・学修環境に対する満足度」より「学生自身の学びと成長」を捉えることを重視

⇒学習成果 (LO) を基調としつつ、正課内外の包括的な学生生活サイクルに着目し、学部・学科 (学問分野)・学年といった文脈を踏まえて設計・分析

⇒その中で知識・技能・態度のバランスを考慮し、直接評価指標となる成績等の教学データとのリンケージを含めて設計・分析

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

10

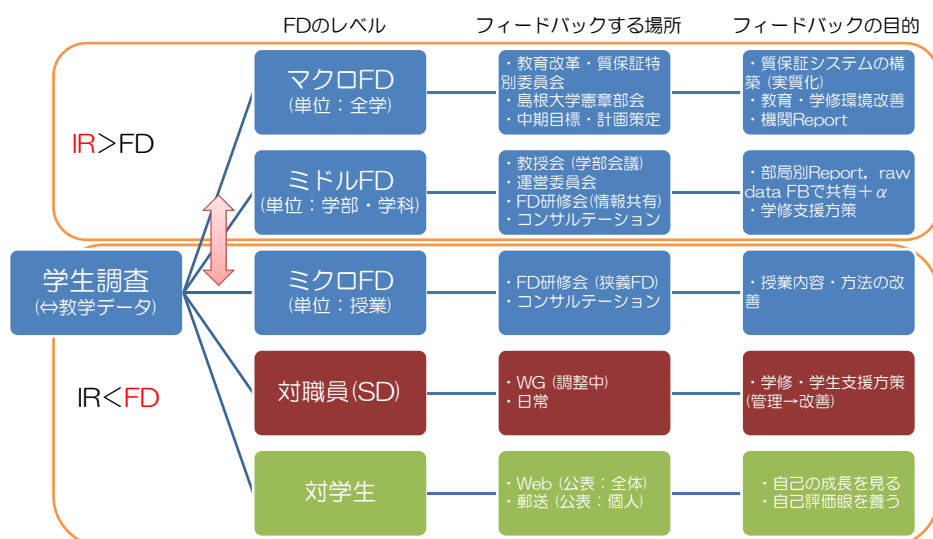


3. 学生調査を核とした教学IRとFDの連動

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

11

学生調査を踏まえたマルチレベルのIRとFDの連動



Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

12

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

4. 今後の課題（論点）

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

15

今後の課題（論点）

- 効率的なDWHの構築（システム）
⇒学内に点在する様々なシステムは分断されており、必要に応じて誰もがアクセス出来る効率的・効果的なDWHの構築が必要
- 学内での連携体制の強化（ネットワーク）
⇒各アクター間のつながりはまだ弱く、学部・執行部のみならず総合企画室や評価室などの他センター・室との連携が必要
- 教職協働体制の強化⇔専門人材の育成（教職協働・SD）
⇒縦割りで業務や管理データが分断されていること、教員と職員との壁が厚いことから、効率的・効果的な業務ラインの構築と各種データ分析に係るスキルや学修支援に関する知識の獲得が必要
- 内部質保証システムにおけるIRの認知度の強化（戦略）
⇒執行部等管理職にある教職員が「内部質保証システム構築におけるIRとFDの連動」の重要性について理解し、必要な措置を講じることが必要

Copyright © 2008 Tsuyoshi Yamada, All rights reserved.

16